

2022 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人

ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

I. 事業の成果

1. 組織の運営

実績	成果・課題
<p>会員は、運営会員 23(23)名、賛同会員 100(94)名 () は昨年度の会員数 寄付件数は 21 件</p>	<p>会員数は、未納者も加えての数。 賛同会費の金額を下げ声掛けをしやすくしたこともあり、昨年度より会員数は増えているが、目標には届かなかった。</p>
<p>定例理事会をオンライン併用で、年 5 回開催した。</p>	<p>オンライン併用開催としたことで、出席率は上がった。</p>
<p>・事務局は 17 名（内四街道市みんなで地域づくりセンター 8 名）おおなみこなみボランティアスタッフ 5 名で運営 ・退職者 3 名、新規採用 5 名</p>	<p>四街道市みんなで地域づくりセンターでの職員退職に伴い、新規採用者への育成に向けた業務に注力、スキルアップ、業務分担ができつつある。</p>

2. 相談事業・NPOの支援事業

①相談事業

実績	成果・課題
<p>事務所での相談は 40 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 89 件、年間で 129 件の相談件数</p>	<p>事務所での相談では、法人の立ち上げや団体運営についての相談が多い。四街道では、地域の課題や情報の問合せが多くなっている。電話、メール等での軽微な相談の記録が残っていないことが課題。</p>

②講座事業

実績	成果・課題
<p>千葉県市民活動団体マネジメント事業を受託実施 6 回の講座を開催。団体の基盤強化、運営力向上につながる内容で、外部講師を依頼し専門性を持った内容で開催。受講者数延べ 112 名。講座満足度で満足との回答は 81.3%。</p>	<p>可能な講座で、講座後にオンデマンド配信を実施。当日受講できない人や振り返り確認をしたい人にとっては、有用と思われる。会計講座はオンライン併用開催としたが、理解度の開きもあり、難しい講座運営となった。対面開催のみでは、受講生の確保が難しい状況となっている。</p>
<p>ちばし地域づくり大学校 令和 4 年度地域人材育成事業として受託、実施。ステップアップコース 22 名（定員 30 名）、入門コース 19 名（定員 20 名）、基礎コース 2 クラス 35 名（定員 40 名）で実施。全クラス 11~14 回の講座を開催。基礎コースでは、地域の活動団体でのボランティア体験プログラムも組み込んで、地域づくりの人材育成につなげた。</p>	<p>「コロナ」の影響もあり、受講生確保が難しく、定員に満たない状況での実施となった。大学生からシニアまで所属や関心も多様で、受講生の満足度は高く、地域づくり人材の確保につながったと確信できる。修了者数も多くなり、フォローアッププログラムや情報交流プログラムを検討する。</p>

③講師派遣

実績	成果・課題
<p>NPO と行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師を派遣</p>	<p>行政との連携・協働のひとつのプログラムとなっている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県緑区、千葉県美浜区、千葉市中央区地域活性化支援事業助成対象団体研修（各1回） ・コミュニティカレッジ佐倉1年、2年 ・習志野市民カレッジ ・とみさと協働塾4回 ・野田市市民活動支援センター「NPO法人の運営基礎講座」 ・柏市自律型人材育成研修（協働推進研修） ・浦安市市民活動センター「団体応援講座」 	<p>市町域での市民活動団体メンバーや職員を対象にした講座等の講師を担う中で、地域の状況が把握できるとともに、支援のチャンネルが広がった。</p>
--	---

3. 被災地・被災者支援事業

①福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業（福島県県外避難者相談センターちば開設）

実績	成果・課題
電話・対面相談を実施、電話による相談件数延べ119件	同じ方からの相談が多い
茶話会（参加避難者数） 鎌ヶ谷市4名、成田市4名、山武市8名 千葉市5名、松戸市4名、茂原市11名	避難者同士会話が盛り上がった。 また、交流の機会を企画してほしいとの声が上がった。
交流会（参加避難者数） ①陶芸体験交流会 鎌ヶ谷市9/29（20名） ②縁 joy 交流会 2022 11/2～11/4 千葉市生涯学習センターにて開催（9名） ③山武市交流会「までいやと小林牧場」12/6（9名） ④千葉市中央区交流会 3/6 そごう千葉（写真展含む）（2名） ⑤千葉市花見川区交流会 3/23 体操ヨガ体験（3名）	①コロナ禍だったが、場所と日時、内容が良かったことから、参加者が多かった。 ②被災者が講師となり、手作り品をすることで会話が弾み、楽しんで取り組んでいた。 ③松戸や柏市の避難者が避難元でつながりのあった方との交流ができた。 ⑤周知がうまくいかなかったことで、参加が少なかったが参加者からはまた企画してほしいとの声があがった。
千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付（隔月2000部）	掲載内容の充実をはかることが課題
県内自治体との連携・調整 県内13市町の自治体訪問（避難者が多い市町を主に選んだ）	情報提供、課題共有等、震災から12年を経つが、未だ、帰還できない方々がいることを伝えることができた。
県内の支援団体等と情報交換会を6月、9月、12月、3月に開催	支援団体間の情報共有ができて、団体間での連携、協力が進み、支援の充実につながった。
そごう千葉での写真展示を3/7～3/13開催	広く多くの人たちと東日本大震災のことの記憶と現状を共有できた。

②福島県避難者住宅確保・移転サポート業務

実績	成果・課題
電話相談58件（いずれも延べ数） 訪問3件	複合的な課題を抱えた方からの相談が多い。

③千葉南部災害支援センターおよびCVOAD被災地支援活動

実績	成果・課題
・災害支援ネットワークちば（CVOAD）の事務局として、世話人会とともに、「誰一人取り残さない支援」の実現を目指して、交流会や学習会を3ヶ月に1回程度開催した。	組織体制や事業の拡充を進めていくためにも専任の事務局配置が必要と思われる。

<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府主催（千葉県開催）の講座に参加、災害時における「行政、社協、NPO」の三者連携に向けて情報、知識を得るとともに、千葉県内の仕組みづくりに向けた意見交換を行った。 ・千葉県災害ボランティアセンター連絡会にオブザーバー参加し、災害支援に関わる県内の団体・組織と情報共有した。 ・JVOAD 主催の災害支援中間組織全体会に参加、ガイドライン作成に協力した。 ・JPF の助成を得て、冊子「令和元年房総半島台風での対応を今後の災害支援につなげるために」冊子を 1000 部作成、行政、NPO 等に配布した。 	<p>ふりかえりをもとに、今後の災害に備える一助になったと思われる。連携、協力する NPO がまだまだ少なく、行政や市町村社協への配布が中心となってしまった。</p>
--	---

4. 地域づくりのコーディネート事業

①四街道市みんなで地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

実績	成果・課題
<p>オープン日 221 日、来所者数 2,379 人（コロナの影響が収まってきた）他に大きなテーブル 800 人、ユニバーサル農業フェスタ 1,300 人。新着情報 379 件、相談件数延べ 89 件</p>	
<p>コラボ推進プロジェクト 地域団体ヒアリング：4/13 鹿放ヶ丘ふれあいセンター 4/20 NPO 法人はちみつ、6/1 移動図書館ドリーム号 6/7 市民のためのバレエ、7/20 ちょこっとクラブ 7/22 ネイバーフードプレイス（八千代市）、10/11 児童デイサービスセンターくれよん、10/23 旭ヶ丘みらい食堂 【コラボ塾（全 5 回講座）】 ・9/8 公開講座「地域の元気を作り出すコツ」オンライン併用 事例報告：NPO 法人わか宮本亜佳音さん、ちょこっとクラブ 松浦由紀子さん 参加 16 人+オンライン 4 人 ・9/22 四街道の地域課題を出し合おう 参加 2 人 ・10/6「アイデアのたね」を掘り起こし、事業を企画しよう！参加 7 人 ・10/20 企画提案書の作成・プレゼンをしてみよう 参加 3 人 ・1/26 本番直前プレ・プレゼン 参加 5 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体ヒアリングは、新人スタッフの研修も兼ね、団体の活動をヒアリングした。 ・コラボ四街道応募は、3 団体（ちょこっとクラブ 2 回目、よつかいどう学生服リユース、笑うベスマホ庵） ・コラボ塾の参加者は少なく、新たな企画や伝え方が必要となった。 ・次年度は「新しい人、団体との出会いが減少している」ことを解決するため、また既存の団体のコロナ禍での活動停滞を解消しステップアップするための支援をする。
<p>自治会情報交換会（第 22 回） ・6/30～コロナ禍における自治会活動の現状と課題解決のために 事例報告：生活支援コーディネーター梅山美枝さん 情報交換 参加 25 人+オンライン 1 人</p>	<p>地域の中の困りごとは自治会だけでの解決は難しく、いろいろな主体の協働が有効であると考えられる。事例をもとに解決策を探る。</p>
<p>認知症になっても安心な地域づくりを ・9/20 講演会「認知症になってもともに暮らせるまちづくり」 講師：大山一志さん（東京情報大学看護学部助教）参加 15 人 アンケート「認知症についての知識が深まった」8 人/12 人</p>	<p>情報大との連携、市内認知症カフェとの連携が取りやすくなった。更に、地域包括支援センターとの連携を深めたい。</p>
<p>子ども支援ネットワーク ・7/13 みんなで子育て講演会「学校に行きたくないと言われたら」講師：NPO 法人ころね理事長 白尾藍さん 参加 27 人、FB イベントのリーチは 4425 回、SNS で告知の目的は果たせた。 ・9/15 座談会「不登校親の会の運営って、大変？」7/13 振り返り。関心のある市民の参加 参加 8 人 ・10/31 地域の居場所「おひさま文庫」（東金市日本財団子ども第 3 の居場所づくり助成）の見学会（バス視察）参加 13 人 ・12/8 子ども支援交流会・円卓会議「不登校支援に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して不登校支援をテーマとし、円卓会議では立場の違う参加者が情報交換することができた。円卓会議後、不登校親の会 2 団体の協力関係をつくり、センターが行うべきサポートの内容が整理できた。 ・見学会では居場所を運営する人の思いを聴くことができた。 ・状況の変化から、平成 30 年（2018

<p>交換」報告：「不登校支援の現状」教育委員会指導課教育サポート室千葉芳子さん、「なぜ親の支援が必要か」お母さんの家庭教師 中川美奈さん 参加 22 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所マップは、コロナ後の変化から内容を更新し 200 部再発行。円卓会議や不登校親の会開催場所に届けた。 ・Raku まあるへのヒアリング、FB、Instagram のサポート ・不登校親の会の 2 団体へのサポート 	<p>年)に立ち上げ一定の役割を果たした「子どもサポートプロジェクト」を解散。ホームページや子どもの居場所マップは継続し(更新し 200 部発行) 新たなネットワークづくりを始めた。</p>
<p>みんなで災害支援ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害支援ネットワーク 56 団体 65 人、LINE オープンチャットで情報交換、平時の関係づくりを構築する (45 人登録) ・市地域防災計画 WS に参加 (コーディネーター、ネットワークメンバー) ・5/31 防災カルタ 参加 4 人 →事後、地域で波及効果あり。 ・10/19 災害支援学習会「支援を活かす地域カワークショップ」(一社)ピースポート災害支援センター／「四街道市における地域防災の現状」澤島博危機管理官 参加 31 人 ・2/24 四街道みんなで災害支援ネットワークの会 交流会 災害に関する動画鑑賞、自己紹介、スマホ豆知識、アンケート「もしもの時に支援できること」参加 19 人：NPO(障害者支援、国際交流、ペット飼育、食、子ども、朗読)、民生委員、社協、地区社協、防災士、地元企業 (2 社) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE チャットは登録が増え (前年 23 人)、情報交換や講座の参加呼び掛けなど活用が進んだ。 ・学習会では、災害支援の現場の状況に基づいた情報が得られ、参加した自治会、市民活動団体、防災士などテーマに沿って話し合いを重ねることができた。 ・今後は災害支援ネットワークの自主的な運営をすすめたい。 ・災害時のセンターの役割の確認やシュミレーションが課題。
<p>アートを活かしたまちづくり ～みんなでアート四街道 2022</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/24 情報交換 ふるさとまつり彩りプロジェクト(ふるさとまつり/自治振興課)紹介 参加 11 人 ・7/27 ワークショップ(90×180 パネル 10 枚) 参加 16 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの参加者が、アートを通して地域への関心を持つきっかけとなった。(2020 年「まちにとけこむアート活動」から継続した取り組み。
<p>福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」(第 20 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/21 参加者 800 人、売り上げ 564,430 円 主催 実行委員会(事務局センター)共催 地域振興財団、後援 四街道市 参加 16 団体(福祉 10, 協賛 6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から実行委主催に移行 ・子育て世代からシニア、障害のある人や家族など様々な人が参加する場となり、団体間の交流も進んだ。
<p>ちばユニバーサル農業フェスタ 2022 in 四街道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委主催(後援 四街道市 センターは地域づくりの事業としてコーディネート)市の新規就農相談受付(産業振興課)、農福連携の紹介、フードドライブ BOX 設置なども実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人や参加団体の交流が進んだ。また、就農相談など産業振興課(農政係)と連携して取り組むことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「みんなで」年 4 回(6・12 月 4500 部、9・3 月 5000 部発行)テーマ：32 号里山のある風景、33 号図書館に行こう、34 号地産地消のある暮らし、35 号地域で学びを支える ・ホームページリニューアル準備中、 ・ブログ年間 10 件、Facebook いいね(昨年 804)868 フォロワー 1025 投稿 125 件/年、Instagram フォロワー 147 ・メール 災害支援ネットワーク、子ども支援でリスト作成 ・団体情報 83 団体 ・カレンダープロジェクト テマ:マイブーム ・12/6～12 そごう千葉店「みんなで地域づくり写真展」センター事業・ユニバーサル農業フェスタ ・市：まちの記憶を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌：今後は読者の反響を何らかの形で計測する方法を考えたい。 ・次年度ホームページをリニューアルし、スタッフが更新しよりタイムリーな発信を目指す。 ・Facebook は活発に活用。Instagram は若い世代に効果が見られたので活用を図る。 ・オンラインによる情報発信やコミュニケーションへの活用を進める
<p>市民団体マネジメント講座 ※6 月～第 1 火曜日・年 8 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「ソシオ・マネジメント VOL.1 改訂・増補版」IIHOE 発行 少人数で読み合わせ意見交換、参加各回 3 人+新人スタッフ 4 人受講 	<p>新人スタッフの研修も兼ねて実施し、団体の運営について、基本的な事項を学んだ。</p>
<p>みんなで×捨てない暮らし (SDGs について考える)</p> <p>①6/2 着物で受け継ぐ先人のこころ(着物リメイク) 参加 12 人</p>	<p>①講座後も自主グループで活動。11 月に愛国学園大学学園祭で発表会実</p>

②10/12 生ゴミから堆肥をつくろう 講師 NPO 法人ビオスの会 主催 廃棄物対策課 センター:協力(2月に2回目実施)	施。
その他 大学との連携・協力、インターンシップ (1)愛国学園大学「大学生も地域とつながろう！プロジェクト」 協力、年間9回、大学生5名、大学教員2名。 (2)淑徳大学 8名(政策推進課)市民活動3団体の取材、ユニバーサル 農業フェスタで掲示発表、コラボ四街道公開プレゼン運営補佐	今後も継続して受け入れる中で、大学(大学生)と連携して地域づくりに つながることを目指したい。
・2/25 市民大学講座「市民のまちづくり」担当スタッフ5人閉 会式後講義30分+ワーク20分(地域づくりやセンターの役割) 受講生44人+運営委員 終了後15人がセンター見学	今回はセンターの役割や地域づくり について十分理解が得られなかった が、今後も伝える機会を持ちたい。

②多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業

実績	成果・課題
開設から9年が経過、「コロナ」の感染拡大予防に配慮しながら継続オープン。	リピーターが増え、場所としての機能が 定着した。一方で、来所者の広がりを作 っていくことが必要。
健康貯筋体操、アイチ体操、おとなのための英会話講座を継続開催。	ボランティア講師の力が大きい。
「編み物サークル」「折り紙講座」等、主体的に活動するグループが増えた。	
「青空市」を開催(7月、3月)。生活クラブ虹の街から「子ども食堂」運営のための助成金3.9万円の助成を充当。	開催形態を工夫しながら、交流・支援の 場を設定できた。
「ロボットプログラミング」講座の会場等、スペース貸しにより運営費の確保ができた。	運営費充当ができた。
JFSA や県内の5福祉事業所の協力を得て、物品の受託販売を実施した。	運営費に充当するとともに、物品の販売 を通して、それぞれの事業のアピールを 行った。

③生活クラブ安心システム地域づくり(コミュニティデザイン)事業

実績	成果・課題
・佐倉安心システム推進会議(5回)にオブザーバー参加して、 取り組む課題を共有し、コミュニティデザイン事業の活動を 報告した。	事業進捗を共有したことで、職員のイ ベント参加の協力を得られた。
・風の村さくらがある佐倉市内郷地区で機関、組織、地域のキ ーマンにヒアリング(健康体操クラブ@山崎公会堂)、地区 社協の浅野さんの協力で地域情報を得た。 ・さくら冒険基地の協力で、地域に呼びかけ竹林整備活動3回 (25名)、竹灯籠づくり(19名)、門松づくり(23名)、たけ のこ掘り(11名)のイベントを開催した。	イベントに参加された方が地域食堂を やりたいということから、準備を進め た。4/22(土)プレ地域食堂開催予定。

④SAVEJAPAN プロジェクト事業

実績	成果・課題
損保ジャパン、日本 NPO センター、全国の環境保全団体、中 間支援団体が協働で「みんなで守ろう！日本の希少生物種と 自然環境」を目的に実施。NPO 法人ちば環境情報センターと 協働して「千葉市内に残された谷津田の命の賑わいとつなが り」をテーマに2年目実施。NPO クラブは広報支援、専用サ イトでの情報発信を担った。(期間:2021/10月~2022/9月) ・他に谷津田の観察会を毎月実施、外来生物(アライグマ、	・谷津田の観察会など野外活動も停滞する なか、感染対策を徹底したうえで継続開催 し、若い子育て世代の参加者が増えている。 ・活動場所である下大和田地域で開発事業 計画があり、現在「環境影響評価報告書」

イノシシ、ウシガエル等)チェックと駆除を実施。	が閲覧され、それに合わせて意見表明活動が行われている。
-------------------------	-----------------------------

⑤プロボノ事業

実績	成果・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ちばプロボノ情報交換会 1/29 オンライン 参加 18 名 過去 3 年実施事業を団体へのプロボノ後についてのアンケート回答を参考に今後についてグループトーク。 ・習志野市「みんなで市民活動交流会」でプロボノ事業について事例報告 3/11 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロボノワーカー経験者のほか、プロボノに関心のある団体、個人、行政職員が参加。経験者から声があがり、次年度の企画会議の実施につながる。 ・次年度の事業予算確保が課題。

⑥全国ボランティア推進団体会議「民ボラ」開催について

実績	成果・課題
<p>全国ボランティア推進団体会議「民ボラ in 東京」テーマは「市民の声は社会を変えられるのか？」5/28, 29 開催。対面、オンライン (Zoom) 併用開催となったが、全国の中間支援組織とともに、企画、運営を担った。</p>	<p>全国の中間支援組織メンバーとの連携が企画の運営・実施を通して深められ、社会状況の変化と対応する活動内容についての共有が進んだ。</p>

5. 広報事業

実績	成果・課題
<p><紙媒体による情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレター「つぎの一步くん」76~78 号を各 800~900 部発行。会員、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布、配架依頼。対面で配布できる機会が昨年よりも増え、発行枚数も増やした。 ・団体リーフレットをリニューアル発行。1000 部を県内の市民活動支援センター、ボランティアセンターに配架依頼。 ・千葉市市民活動支援センター発行の「市民活動マッチングカタログ 2023」に団体紹介を掲載。市内の公共施設や大学などへの送付、センターHP にも掲載される 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体が連携する際の組み立て方や地域コミュニティのつながり方についてなど連携、協働をテーマとして取り上げ、活動事例と共に伝えた。 ・会員加入者に向けた内容を意識してリーフレット紙面を作成し、団体の認知の場面等で活用している。
<p><メールによる情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジン「通信・一步くん」を会員、講座受講者などに適時配信。(年間 13 回配信、登録者数は 548 名) ・県内の NPO 法人のほか、一般社団法人、任意団体などのリストを作成しメールマガジン登録外の約 180 団体にメールで講座案内を行う。船橋市、千葉市の関連機関に広報協力を依頼するなど、講座や大学校の受講対象団体の掘り起こしを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の案内、補助金の活用等、他団体の情報等も含め広く情報収集し、情報提供した。メルマガ登録者数は、昨年度より 72 名増加。 ・コロナ以降オンラインの普及で、全国の講座が受講可能となり、講座受講者は集めづらくなっている。船橋市、千葉市との連携により広報効果も一定出ているので、他市町村でも進めたい。担当者との個別のやり取りの事務負担が課題。
<p><ホームページ、ブログ、SNS による情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体ホームページ、団体ブログ「NPO クラブの愉快的仲間たち」「縁」o y 東北~エンジョイ東北」、Facebook ページ(フォロワー 477)、Twitter ページ(フォロワー 536)で団体情報を適時更新。 ・ちばし地域づくり大学校、SAVE JAPAN プロジェクトのホームページ、おおなみなみ Facebook ページで事業の情報を更新。 	<p>ちばし地域づくり大学校のホームページの内容充実により、一定の受講生の応募につながった。各事業ページでの更新と、団体ページや SNS と連動し、適時、情報発信ができた。</p>

<p><他サイトでの情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉日報社の千葉の情報ポータルサイト「ちばとぴ！チャンネル」に「CHIBAKARA～ちばからチャンネル」（フォロワー1532）を適時更新。 ・職員募集時には、NPO・社会的企業のボランティア・職員の募集サイト「activo」を活用 <p><メディア掲載></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/7 ちばテレビ「news ちば」18時～ そごう千葉 「忘れない東日本大震災」写真展の紹介を放送。同ネット記事にも掲載。 ・3/10 千葉日報 千葉市・首都圏版に同上の紹介記事掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・「CHIBAKARA～ちばからチャンネル」は、フォロワー数を伸ばしており、地域活動への関心を広げ、掘り起こしに一定つながっている。 ・「activo」からは2名の応募があり、採用につながった。今後、ボランティア募集等にも有効活用したい。
--	--

6. 他団体との連携・協力事業

①NPO法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

実績	成果・課題
<p>ユニバーサル農業で生産される農産物や加工品の販売促進を目的に、生活クラブ・スピリッツと提携、カタログに掲載、受注の取り次ぎを行った。</p>	<p>・笹川なずな工房のいちじくジャムをカタログ発行の度に受注した。 15個×3ケース/年(3月末終了)</p>
<p>11/26(土)「第12回ちばユニバーサル農業フェスタ」を、四街道市文化センター前広場と屋内にて開催。事務局を担当。出展26団体/24ブース(四街道近隣の農業、福祉事業者)、来場者1300名、売上874,000円、寄附29,600円。</p>	<p>「新型コロナ」対策をして開催。一時雨天となったが来場者は途切れず、団体同士、団体と来場者との交流が進んだ。市による「新規就農相談」の実施された。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・第4回つながる経済フォーラム12/10をオンライン併用開催に世話人団体として協力した。40名参加 「それぞれの社会貢献～法人形態を超えてつながる地域と経済～」 ・延期になっていたフォーラム「斎藤幸平さんと考える・混迷する時代と新たな「コミュニズム」開催@大里総合管理ホール開催協力、リレートークで「NPO支援からの地域づくり支援」発表した。 	<p>齊藤幸平さんの印象的な言葉から、現状の社会課題を再確認した。「豊かで貧しい日本」「SDGsは大衆のアヘンである」(小さなアクションで満足、大胆なアクションにつながらなくなる)、当事者だけではなく「共事者」にも。</p>

②その他の組織、団体との連携

実績	成果と課題
<p>公益財団法人ちばのWA地域づくり基金の役員として、理事ミーティング、定例理事会に出席し、寄付募集、助成審査会等に携わった。「子どもの今と未来を支える基金」「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」「事業指定プログラム」「休眠預金等活用助成事業」、日本財団「子ども第3の居場所」事業等を通して、コミュニティ財団としての機能、役割が拡充できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経済的困難を抱える家庭の子どもたちの体験格差を解消するために」クラウドファンディングの取組みをメールマガジン、案内チラシ配布など広報協力した。 	<p>・寄付者115名、総額1,493,000円。 特にNPOクラブ職員含め関係者からも寄付をいただいた。</p>
<p>生活クラブ千葉グループ協議会、年4回開催される運営協議会に出席、「生活クラブ安心システム」「街の縁側」「子ども安心システム」に協力した。また、ちば社会連帯経済研究所が実施する講演会、機関紙発行に協力した。</p>	<p>グループ内の活動に留まりがちであり、地域に向けた情報発信が課題。</p>
<p>千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議に参加、県内の支援組織、市行政担当課と意見交換、情報交換をした。研修会にも参加した。</p>	

<p>千葉県社会福祉協議会や県内自治体等設置の委員会や審査会に参画、就任した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県緑区補助金審査アドバイザー（鍋嶋） ・印西市まちづくりファンド選考委員会（鍋嶋） ・松戸市協働のまちづくり協議会（牧野） ・習志野市協働推進委員会（牧野） ・大網白里市住民協働事業審査会（勝又） ・市原市市民活動・協働推進委員会（牧野） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター監事（勝又） ・NPO 法人ほっとハート監事（鍋嶋） ・生活クラブ生協千葉監事（鍋嶋） ・公益財団法人ちばのWA 地域づくり基金理事長（牧野） 	

II. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
市民活動・市民事業に関する情報収集及び提供事業	【広報事業】 ・ニューズレター「つぎの一步くん」の発行	年4回	当事務所	2名	会員100名 他多数 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 会員100名および配信希望者150名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体
	・メールマガジン「通信・一步くん」の配信	毎月2回	当事務所	1名	
	・団体ホームページ、ブログ、Facebook等での情報発信	随時	当事務所	2名	
市民活動・市民事業に関する講座事業	【講座事業】 ・千葉県市民活動団体マネジメント事業	10月～2月	千葉市 船橋市	6名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 延べ112名の参加 千葉市および近隣市在住の市民一般76名
	・ちばし地域づくり大学校	9月～2月	千葉市	6名	
市民活動・市民事業を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言または援助事業	【相談事業】 ・事務所での相談対応	通年	当事務所	6名	市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数40件 市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数89件 市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 入館者総数2,379名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 1団体、40名 市民活動・市民事業を行う団体 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 「ユニバーサル農業フェスタ」来場約1,300名 ・千葉県、四街道市、千葉市、大網白里市、松戸市、印西市、習志野市 ・千葉県社会福祉協議会 ・中間支援組織 ・中央ろうきん
	・四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談	通年	四街道市	8名	
	【四街道市みんなで地域づくりセンターの運営】	通年	四街道市	9名	
	【SAVEJAPAN プロジェクト事業】	通年	千葉市内	2名	
	【ちばNPO情報館】	通年	当事務所	2名	
	【NPO 法人地域創造ネットワークちばの事務局業務】	通年	千葉県内	2名	
【自治体、他団体との連携・協力業務】 委員会等にNPOの立場で関わるとともに、講座等の講師を担った。		千葉県内	3名		

被災地・被災者支援事業	【福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業】	通年	千葉県内	3名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体
	【福島県避難者住宅確保・移転サポート業務】	通年	千葉県内	3名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体
	【千葉南部災害支援センターおよびCVOAD事業】	通年	千葉県内	2名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体
まちづくり・地域づくり事業	【多様な人々をつなぎ活かす交流拠点事業】	通年	千葉県内	6名	市民一般 来場者数 約 1,000名
	【生活クラブ安心システム地域づくり】(コミュニティデザイン)	通年	佐倉市	2名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体